

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	－	－	－
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・春節や週末、休日などの観光客、インバウンド客が確実に増えてきている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・例年に比べて来客数が非常によく伸びている。前年比で20%伸びている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・暖冬小雪であるため前年同月に比べて来客数が多くなっているが、なかなか新車、中古車共に売上に結びついていない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今月の前半までは、貸切が入ったりで何とかうまくいっていたが、後半から悪い流れになり、前年同月比75%となった。異業種の経営者も、实体经济は悪いとの声が聞かれる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・2月前半は、天候に恵まれ雪も降らなかった。後半になって雪が降り、足元も悪く寒い日もあったことから、全体としては良かった。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国内客の動きは、前年同月比でややプラスに推移するとともに、個人客も暖冬の影響で観光しやすくなっているせいも、前年より2けた近い伸びになっている。またインバウンド客も、旧正月ということもあり前年以上の入込となっている。全体としての消費単価も前年を上回る状況にあり、やや良い方向に推移していると感じている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注額は目標比18%増、前年比約4割の増加と順調に推移した。先月から契約が好調に推移しており、消費税増税を見据えた客の動きが本格化してきたのかなと推測できる。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・春物がそろっているが、卒業、入学に関する衣料も動きが鈍い。購買意欲があまりみられない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・2月は特別な動きはなく、平年並みに推移したと思う。当商店街の状況は、良くも悪くもなく、例年通りである。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・需要期と重なり、法人や官庁などに対する売上高は増加している。ただし、店頭の個人消費は横ばいで、あまり活発な動きはみえない。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・正月明けはさすがに観光客の姿が少なかったが、下旬以降は戻ってきている。3か月前と比べると変わらないのだが、前年比では依然上回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今年は例年より暖冬であることから、来客数は増えている。生鮮食品も多少の相場変動はあるものの、今年は順調になっていると考えられる。
スーパー（総務担当）		販売量の動き	・気温による商品動向の違いはあるものの、全体としての販売量、1人当たり買上点数は前年並みで推移しており、目立った動きがないことから、横ばいと思われる。	
スーパー（店舗管理）		来客数の動き	・売上高は前年並みをクリアしているが、来客数や販売点数は前年並みであり、値上げによる単価上昇が影響しているものと思われる。	
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・来客数が微減で客単価が微増であり、トータルとしては前年比100%ぎりぎりの状態が続いている。チルド飲料、野菜ジュース関連といった好調な商材はあるものの、全体として客がついで買いをするのではなく、目的買いの客が多いように感じられる。売れるものは売れるが、売れないものは売れないという感じである。	
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・前年比はここ数か月全く変わらない状況で、低い水準のまま動いていない。	
コンビニ（店舗管理）		来客数の動き	・前年と比べて好天に恵まれているはずだが、来客数は前年とほぼ同数である。平日の客単価が前年を大きく割っている。平常時の財布のひもが固いようである。	
乗用車販売店（経営者）		販売量の動き	・当社の販売量は3か月前と比べると少し多いが、地域全体の販売量は前年を大きく下回っている状況であり、景気が良いとはいえない。	
乗用車販売店（役員）		販売量の動き	・製鋼所の爆発事故によりメーカーの生産が1週間ストップするというハプニングがあったので、足元の販売は計画の70%程度にダウンしている。	

自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・ 2月は天候の影響もあったが来客数が低迷しており、更に客が求めるのは低価格商品に偏っている。車販売はそれほど悪くはないが、追加装備、カー用品の購入は極力安価で済ませたいとの声が多い。	
その他小売 〔ショッピングセンター〕	お客様の様子	・ 衣料、防寒商品の晩期需要を期待していたが、前年よりも買上点数が少ない。安い商品でも十分吟味しており、必要以上に買ってもらえない。食品関係ではバレンタイン需要が前年を上回り、買上単価が上がっている。	
その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・ 来客数は昨年と同様ペースで進捗している。客単価についても大きな変化は見られないが、買上点数が下がっている。日用品、必需品は買い求めるが、その他の買物には慎重になっている様子である。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ 北陸デスティネーションキャンペーンが年末で終わり、1月は旅行客の減少が気になったが、今月は団体旅行が持ち直したこともあり好調な推移である。	
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ 個人客が多く、宿泊客数、宿泊売上は前年を1割ほど上回ってはいるが、バス料金の値上げなどにより日帰り部門は前年より3割ほど減少している。総売上では若干前年を上回っている。	
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ 宿泊は北陸新幹線効果による伸びは鈍化したものの、堅調に伸びている。しかし、宴会やレストランの客数は前年割れをしており、まだら模様の状況で、総じて変わらない。	
都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・ 宿泊部門は、昨年の北陸新幹線開業効果の反動を危惧していたが、前年と同程度で推移している。レストラン部門においては、個人、法人とも前年並みとまだ力強い回復には至っていない。	
旅行代理店（所長）	販売量の動き	・ 3月の春休みを控え、国内学生旅行の受注は前年並みに推移している。	
旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・ 客の様子は3か月前と比べてあまり変化がない。動きがない。	
タクシー運転手	販売量の動き	・ あまり雪が降らないことから足場が良く、全体的に静かな1か月であった。2月前半は特に静かだったが、中ごろからは客が戻ったような動きをしていた。	
その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・ 暖冬のせいだろうか、2月の入会は大人の会員が前年より獲得できているが、子どもの会員に退会があり、全体では会員数の伸びが全くといっていいほどない。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・ 雪の少ない年は2月でも土地の問い合わせが増えてくるが、今年は雪がほとんどないにもかかわらず問い合わせが増えてこなかった。展示会の来場者数も増えなかった。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ 日本銀行のマイナス金利政策で住宅ローンの利率が下がっており、多くの客が住宅建築を検討しているが、契約までの時間がかかり、多くの会社と競合している。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ 客の様子にも変化がみられず、販売量も横ばいとなっている。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・ 今年は暖冬と言われているが、日によって寒暖差が激しい。暖かい日は人出もぼちぼちなのだが、寒い日は一転して著しく人出が少ない。トータルでは来客数減になっている。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ 本年2月はうるう年の恩恵を受け、営業日数が1日多い。そのおかげで月間売上高はギリギリ前年実績並みの見込みである。暖冬少雪の影響で、冬物衣料、防寒用品については、先月までの状況と変わらず動きが鈍い。今冬の冬物商戦については、盛り上がり欠けた状態でシーズンが終了する。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ やはり一番は株価の低迷に伴う消費自体の冷え込みというか、不要不急な物はしばらくは買い控えという声がある。ぜいたく品やファッション性の高い商材については、もうしばらく景気が落ち着いてからという声がかかり聞かれる。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ 2月に入り、客の意識は春に向かっている。しかし、大きな天候不順により購買意欲が薄まり、買うタイミングを逃しているように感じた。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・ これまで伸びていた客単価の伸びが止まった。昨年2～4月に各食品メーカーの値上げがあったため1品単価も上がったが、1年経過し落ち着いたためと思われる。

	コンビニ（店長）	販売量の動き	・1月下旬から販売量が落ち込んできている。前年や前々年の売上と比較しても、一番低くなっている。外的要因の変化は特にはないが、来客数が減ったというより、1日に何度も利用する客の来店回数が減ったという感じである。延べ来客数が減っているが、利用してくれる客はありがたいことに利用してくれているという状況である。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・経済に先行きの不透明感が増しており、客の消費に力強さが感じられない。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・全く景気浮上の兆しがない中、取引先のメーカーや小売店の倒産が出始めてきている。一段と景気は悪化してきているように思われる。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・低調で最悪の状態である。自分の商売は37～38年になるが、今までで最低だと思う。環境はそれほど悪いようには思えないのだが、数字は上がらない。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・とにかく物が動かず、景気が悪い。3か月前あたりが最低で底ではないかと思っていたが、そこよりも悪くなっている感じがする。これから先、本当に景気が良くなるのかと思うくらい冷え込んでいる。	
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・例年客足が遠のく季節だが、いつもにも増して客の動きが悪い。	
	一般レストラン（統括）	それ以外	・食材価格の高騰、人手不足、所得と税金によるパート従業員の労働時間調整による人手不足など、経営の根幹を良くする見通しが立たない。この対策に加え、既存客数、売上高を確保するための施策コストなど、利益確保の難しさが徐々に高まっている。	
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上140%、宿泊人員121%、宿泊単価118%となった。前年には大型の団体客が入っていたが、今年は1～15名の個人客が前年比152%と大幅に伸びたため、宿泊単価が大きく伸びた。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・契約獲得数は昨年10月をピークに減少傾向にある。この傾向は提供商品の全てに共通してみられ、客の購入意欲はゆっくりと後退している。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・例年であれば、学生向けのスマートフォン購入を検討している客が前倒し購入もしくは予約していくが、今年はその数がかかなり少ない。すでに契約している客が多く、イベントなども反響が少ない。	
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・この業界だけのこともかもしれないが、前年の同時期と比べて来客数が2割ほど減少している。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・商戦期であるにも関わらず、契約数が通常の月と変わらない状況である。国からの携帯電話ショップへの販売方法についての指導による来客数の減少が、我々のサービスの販売にも影響している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・取引先、同業者との話でも、業界全体で前向きな話題にならない。	
	悪くなっている	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・2月の販売量は前年同月比60%である。27年11月の販売量は前年同月比84%だったので、3か月前と比較して下向きである。
企業動向関連	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	—	—	
(北陸)	変わらない	食料品製造業（役員）	それ以外	・現在、我々の業界では、輸入原材料の中でも特に主原料の価格が大きく上がったままで推移しており、この要因が業界における景気指標として重要になっている。価格はここ数か月高止まりで推移しており、その他販売価格、荷動きに大きな変化はなく、景気状況は変わらないとの判断している。
		精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量、生産総量は比較的安定している感があるが、一方では為替や株価の動向の不安定さもあり、不安材料を抱えたままの状況である。
		司法書士	取引先の様子	・3月の期末までに解散する会社も複数あるが、一方で4月設立予定の会社や合併などの組織変更の会社も多い。
	やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注については、前年同期並みの数字を確保するのに苦労する状況が続いている。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・衣料については用途を問わず、非常に状況が悪い。非衣料については、低位安定というところである。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場は中国経済減速の影響で受注が伸びない。また欧米市場も円高と経済状況の不安定さにより、設備投資意欲が出てこない。

	一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・輸出を中心とする企業にとっては数量こそ伸びてはきているものの、現在の円高基調により、為替面で減収傾向となっている。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・当社も同業者も新規受注工事がほとんどなく、手持ち工事が少なくなってきた。	
	建設業（役員）	競争相手の様子	・首都圏を除き受注価格競争が激化しており、地域によって破格の価格で受注を確保する業者が現れ、受注環境は厳しさを増してきた。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・円高、株価の乱高下という今般の状況の中で物量の動きが悪く、特に工作機械など輸出関連の荷動きが悪くなっている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先に、当面の受注は確保しているが先々の見通しが立ちにくいという企業が増えてきている。	
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・県内の建設業の受注が低迷している。また、観光業も暖冬でインバウンド客のキャンセルが多いとの話である。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者関係に話を聞いているが、やはり情報が止まっているという声が多い。また、法人の問い合わせも少ない。	
	税理士（所長）	取引先の様子	・前年から引き続きであるが、生産量、販売量共になかなか思うように伸びない。特に当地では建設業界の仕事が非常に不足している状況が際立っている。また、販売業についても大きな伸びはない。給料関係も特に増えているということもないことから、個人的な消費も弱い感じがしている。	
	悪くなっている	—	—	
雇用関連	良くなっている	—	—	
(北陸)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・30～40代の正社員を目指している人が、紹介予定派遣を活用するために登録することが増えてきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・1月の新規求人数は全体で4498人で、前年同月比2.1%減、前月比では43.8%の増であった。非常に高い水準で求人がきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・先月から求人件数は順調に伸びており、前年度と比べても1～2割多くなっている。特に製造業を中心に、企業規模を問わず、大手からも中小企業からも出されている。
変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・将来的な雇用が不安定な有期契約の派遣については、応募者が依然として少ない。需要に対しての手当てができない。	
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行につき、求人件数が20件ほど減少した。	
	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・2月の求人広告売上は、前年同月比95%である。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人広告数は前年比で6割程度と、大幅に落ちている。ただし求人の内容でみると、一昨年は全体の4割程度だった正社員の比率が昨年と同等の5割以上となっている。求人全体は低調だが、一回りした求人の山はある程度充足され、それも正社員などの比率が高く、市況の給与所得者の質が上がっていることが予測される。	
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、仕事量があっても利益に反映されないという事業所の声も多いため、全体として変わらないと感じる。	
	民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・求人倍率は高い推移が続いているが、事務職などは件数が少なく求職者にとっては狭き門で、業種のミスマッチが発生している。	
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、北陸新幹線の開業効果により宿泊、飲食サービスで前年同月比で増加となっているが、建設業、製造業を中心に前年同月比減少となっており、新規求人数全体でも前年同月比減少となっている。	
悪くなっている	—	—	—	